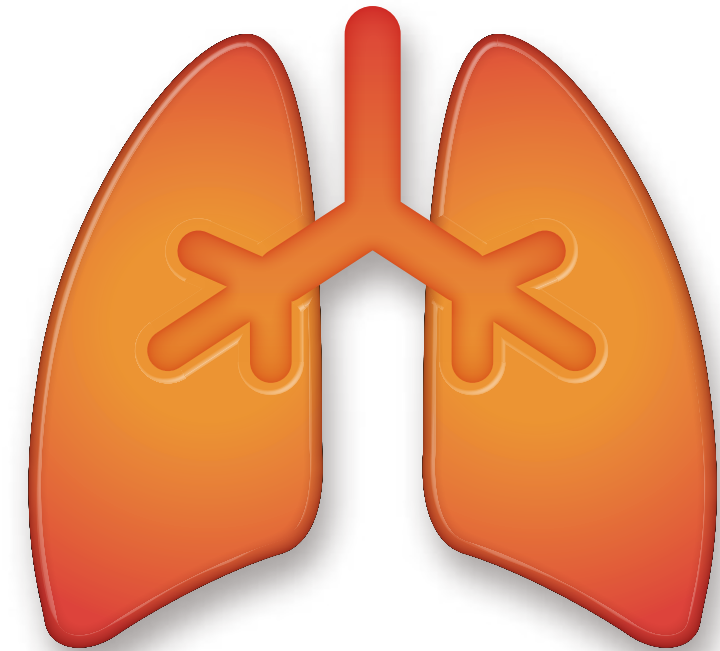


慢性血栓塞栓性肺高血圧症

アデムパス®錠を
服用される患者さんへ



監修：久留米大学 医学部 内科学講座 心臓・血管内科部門 主任教授
福本 義弘 先生

医療機関連絡先

目 次

はじめに	3
CTEPHの治療について	4
アデムパス®錠について	5
アデムパス®錠の服用方法	6
服用にあたり注意していただきたいこと	7
アデムパス®錠を安全に服用するために	8
アデムパス®錠の副作用	9
日常生活で気をつけていただきたいこと	10

はじめに

まんせいけっせんそくせんせいはいこうけつあつしょう
慢性血栓塞栓性肺高血圧症

(CTEPH:chronic thromboembolic pulmonary hypertension)

というなじみのない病名に、
不安を感じている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

CTEPHというのは、肺の血圧が高くなり、
心臓に負担がかかる肺高血圧症のひとつで、
肺の血管の内側に血のかたまり(血栓^{けっせん})が詰まり、
血液が流れにくくなることによって起こる病気です。
このCTEPHの治療薬として日本で初めて承認された薬がアデムパス®錠です。
アデムパス®錠の服用方法や副作用、注意点などを正しく理解し、
根気よく治療を続けていただきたいと考えています。

わからないことは主治医に相談し、できる限り不安を取り除き、
ご自身はもちろん、ご家族のためにも、治療に前向きに取り組んでいきましょう。

福本 義弘

CTEPHの治療について

CTEPHの治療では、血栓のできた場所や、病気の進行具合など、患者さん個々の状態によって治療方法が異なります。

●主な治療方法

治療方法	治療の内容
はいどうみやくけっせんないまくてきじょじゅつ 肺動脈血栓内膜摘除術 (PEA)	血液の流れを悪くしている原因となる血栓を取り除く手術
はいどうみやくかくちようじゅつ バルーン肺動脈拡張術 (BPA)	バルーン（風船）がついたカテーテルを使って、血栓で詰まった血管の内側を広げる治療
薬による内科治療	血栓ができるのを防いだり、肺動脈を広げて血液の流れをよくする薬の服用
酸素療法	慢性的に十分な酸素を取り込めない患者さんに対して、酸素を吸入する治療
肺移植	他に有効な治療法がない場合など、いくつかの条件をみたす場合に行われる手術

●薬による内科治療

患者さん個々の状態に合わせて、適切な薬が決められます。
また、数種類の薬を合わせて服用することもあります。

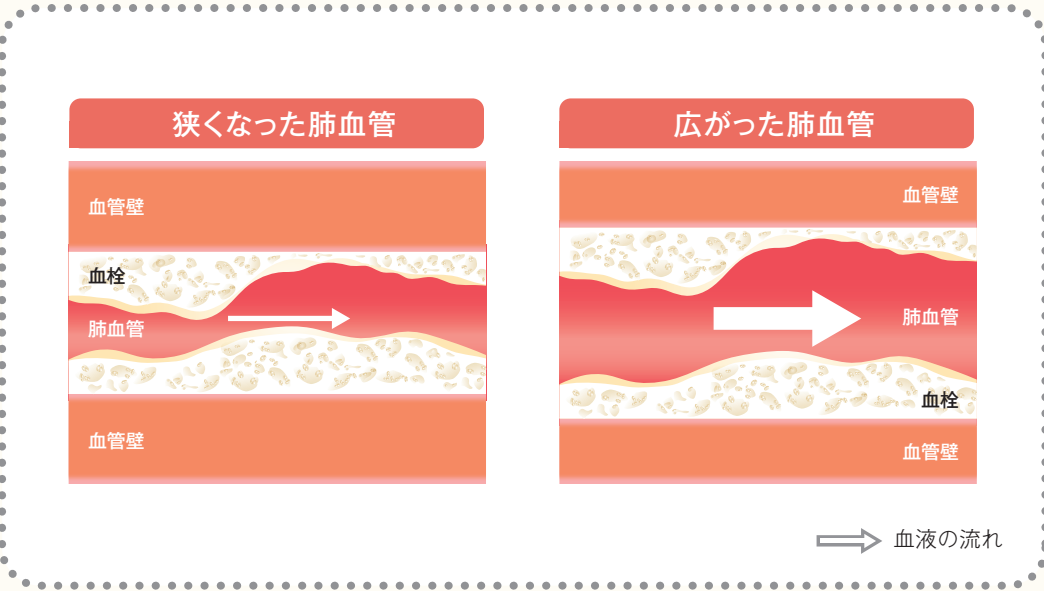
種類		主な作用
肺動脈を広げる	肺血管拡張薬	血栓が原因で、血液が通りにくくなった肺動脈を広げ、血管の圧を下げて肺と心臓の負担を減らします
血栓をできにくくする	こうぎょうこ 抗凝固薬	血液を固まりにくくします
心不全を改善する	利尿薬	尿量を増やして血液量を減らすことで、心臓の負担を軽くします
	強心薬	心臓の収縮力を高めます

アデムパス®錠について

アデムパス®錠は、手術のできない患者さんや、手術後も肺高血圧症が持続・再発した患者さんに対する慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) 治療薬です。

有効成分は、リオシグアトで、肺動脈を広げる薬です。
リオシグアトは、血管壁にある酵素を刺激し、肺の血管を広げる作用を持っています。
肺の血管を広げ、肺動脈の血圧を下げることで、心臓の負担を減らします。
同時に肺動脈を流れる血液の量を増やし、呼吸を楽にします。

●CTEPHの肺血管 (イメージ)



アデムパス®錠の服用方法

●アデムパス®錠の種類

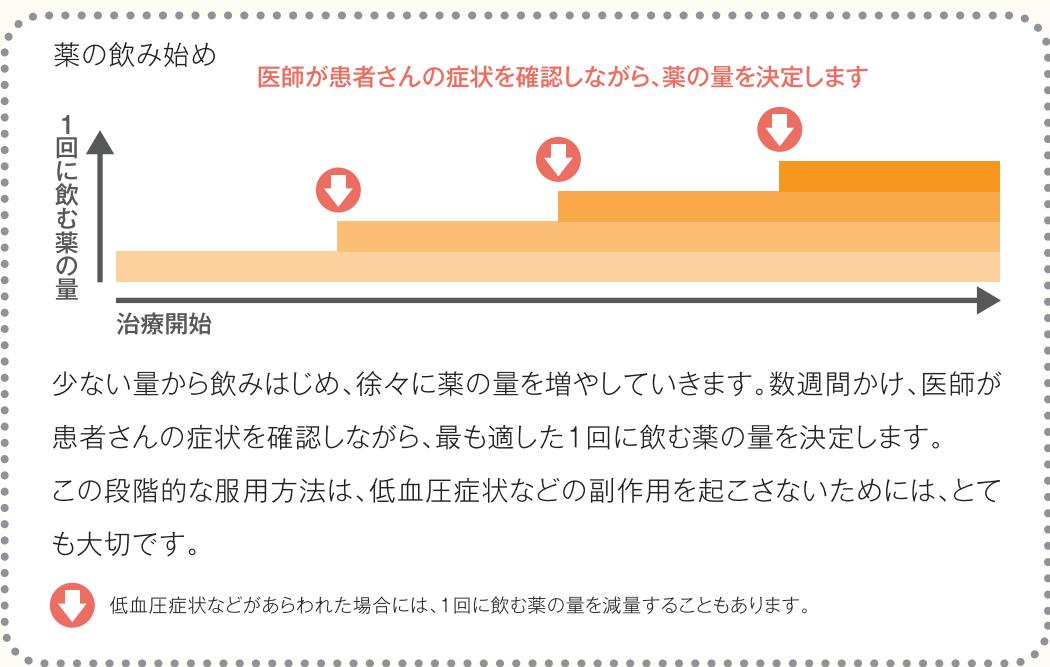
アデムパス®錠は、3種類あります。



●服用方法

1日3回、医師に指示された量の薬を、
水またはぬるま湯と一緒に服用してください。

1回に服用する量は患者さんによって異なります。症状が落ち着いていても、薬を勝手に減らしたり、中止したりすると病状が悪化することがあるので、必ず医師の指示どおりに服用してください。



服用にあたり注意していただきたいこと

- 毎朝血圧を測定し、血圧や症状の変化がないか確認することをおすすめします。
アデムパス®錠の副作用で低血圧症状(めまい、たちくらみなど)があらわれることがあります。
変化を見逃さないよう、血圧や体調を記録する習慣をつけましょう。
- 毎日3回規則正しく服用しましょう。
服用間隔は、約6～8時間にしてください。
あらかじめ薬を服用する時間やタイミングを決めておくといでしょう。
- もし、薬の飲み忘れに気付いた場合は、次の服用時間から1回分を服用してください。**絶対に1度に2回分は服用しないでください。**
- 誤って多く飲んでしまった場合は、医師または薬剤師に相談してください。
- 治療の進行や症状に応じて、1回に服用する薬の量が変わることがあります。
ご自身で判断せず、医師の指示どおりに服用してください。



アデムパス®錠を安全に服用するために

次のような方は、アデムパス®錠による治療が受けられません。

該当する方は、治療を受ける前に、必ず担当の医師に伝えてください。



- アデムパス®錠の成分に対し、以前に過敏症(発疹、かゆみなど)が出たことがある方。
- 妊婦または妊娠している可能性がある方。
- 肝臓に重い障害がある方。
- 腎臓に重い障害がある方、もしくは透析中の方。
- ニトログリセリン、亜硝酸アミル、硝酸イソソルビド、ニコランジルなど、血管を広げる薬で治療中の方。
- シルデナフィルクエン酸塩(レバチオ®、パイアグラ®)、タダラフィル(シアリス®、アドシルカ®)、バルデナフィル塩酸塩水和物など、ホスホジエステラーゼ(PDE)5阻害剤で治療中の方。
- イトラコナゾール、ボリコナゾールなどのアゾール系抗真菌剤で治療中の方。
- ベルイシグアトで治療中の方。

また、以下に該当する方は、服用の際に特別な注意が必要になることがあります。

該当する方は、治療を受ける前に、必ず担当の医師に相談してください。



- 抗凝固療法を行っている方。
- 肝臓や腎臓に障害のある方。
- アデムパス®錠による治療を始める前の収縮期血圧が95mmHg未満の方。
- 肺静脈閉塞性疾患(肺の静脈が詰まる病気)の可能性がある方。
- 喫煙中の方。
- 授乳中の方。
- 現在、他の薬を服用中の方。
お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性がありますので、
市販薬も含め、現在服用中の薬がある方は医師または薬剤師に伝えてください。

アデムパス®錠の副作用

アデムパス®錠のおもな副作用として、以下のような症状が出る場合があります。

・頭痛

・消化不良

・めまい

・低血圧

・吐き気

・下痢

・貧血

・ほてり

このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに起こる重大な副作用として

咳と共に、口から血を吐いたり、血の混じった痰が出る場合があります。

このような症状があらわれたら、アデムパス®錠の服用をやめ、ただちに担当の医師に連絡してください。

上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

日常生活で気をつけていただきたいこと



新しく他の薬を服用すると、アデムパス®錠の効果を強めたり、弱めたりすることがあります。他の薬を新たに服用する場合は、必ず事前に医師または薬剤師に相談してください。

副作用でめまいが起こることがあります。高所での作業や自動車の運転などには十分注意してください。

喫煙がアデムパス®錠の作用を弱めることがわかっています。禁煙するようにしてください。

胎児に影響を及ぼす可能性があるため、アデムパス®錠の服用中は妊娠できません。服用開始後は確実な避妊をおこない、万一妊娠した場合はすぐに医師に相談してください。

アデムパス®錠は乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。

CTEPHに関する詳しい情報

CTEPHについてさらに詳しく知りたい方は、
パソコンやスマートフォンから、
CTEPH疾患情報サイト「CTEPH.jp」をご覧ください。

CTEPHの基礎知識や診断、治療に関する情報など、
様々なコンテンツをご覧ください。

CTEPH疾患情報サイト



<https://www.cteph.jp>

